風のささやき 65号

山仲間アルプ

令和元年 11 月 1 日発行

この１枚

双六岳から見た槍穂高連峰

山　行　報　告

★針ノ木岳・蓮華岳(7 月 13 日～14 日)

参加者　会員(障害者２名、健常者６名)

☆7月１３日

針ノ木岳と蓮華岳は、山仲間アルプ設立の年に１度行っただけの所。その時は、天気が良くなくて、展望はあまり得られなかった。今回も、まだ梅雨の真っ最中のため、好天は期待できない。雨が降らなければ良いなと思う程度だったが、初日の土曜日は、降水確率も低く比較的良い予報だ。しかし、早朝に扇沢に着いたら、どんよりと曇っている。展望は期待できないかなと、少し失望する。

石の多い河原を横断する。

扇沢からは、何度か車道を横切る登山道を登っていく。トンネルの入口で、左の広場を通っ

て登山道に入るが、標識が奥にあって、分かりにくいので、ここは注意だ。

ミソサザイ

何回かガレ場や沢を渡って行く。雲が少し薄くなり、蓮華岳方面が少し見えるようになってきた。針ノ木雪渓への入口にある大沢小屋に着く。前回は、有名な口の悪い管理人さんだったが、５年前に代わり、今は優しい管理人さんだ。私たちが通過したことを針ノ木小屋に連絡しておいていただけるという。

大沢小屋からしばらく登ると、沢に沿って山腹をトラバースするルートになる。ここは、滑りやすい岩場もあり、何ヶ所かロープが張られている。苦手な人もいるので、慎重に通過する。登山道脇には、ニッコウキスゲやあまり見かけない紫色の花も咲いている。

ロープの張られた岩場を登る

雪渓の末端で軽アイゼンを付け、いよいよ雪渓登りが始まる。長い雪渓なのでゆっくり登っていく。雪渓の上には、いくつも落石がある。雪渓上にいるときは、常に落石に警戒しなければならない。

雪渓を登っていると、雲が切れ青空が見えるようになる。振り返ると、雲の中から爺ヶ岳の山頂も見えるようになる。

北アルプス３大雪渓の一つ針ノ木雪渓を登る

２０人近いツアーパーティーも登っている。長かった雪渓も左に曲がって細くなる所で、夏道が出るようになる。軽アイゼンを外し、夏道を行くことにする。ただ、何度か雪渓のトラバースがあった。

後に爺ヶ岳方面が見える

最後のジグザグ道をがんばると針ノ木峠に到着する。太陽の光も差し込み、船窪岳や赤牛岳方面の山も見えるようになる。槍ヶ岳も雲の間から見えそうだったが、結局見ることはできなかった。

蓮華岳を背に針ノ木岳を目指す

針ノ木小屋の方は、午後は雨が降る予報だという。まず受付を済ませ、針ノ木岳を往復することにする。元気が残っていれば、明日は雨予報なので、蓮華岳にも登ることも計算に入れておく。

急坂を登ると、スバリ岳がよく見えるようになる。振り返ると蓮華岳もよく見える。ところどころ残雪の上を歩く。天気が良くなり、針ノ木岳とスバリ岳の間に剣岳が見えるようになった。

針ノ木岳(右)

山頂直下の急な雪渓を登るとすぐに山頂に到着する。すでに剣岳は雲に隠れていたが、山頂からは黒部湖がよく見える。立山や薬師岳、そしてスバリ岳や赤沢岳が見える。赤沢岳の左ずっと奥には、仙人池方面も見えたいた。ただ、鹿島槍など、後立山の山々は雲に隠されていた。

針ノ木岳山頂にて

雲が多いものの、そこそこの展望が得られて満足して山頂を後にする。山頂直下の雪渓は、毎年滑落事故があるらしい。軽アイゼンを付け慎重に下る。

針ノ木小屋まで戻り、元気印の５人で蓮華岳を往復することとする。すでに雲が厚くなってきていて、時折霧に包まれる。それでもまだ雨は降ってきていない。

少し登っていくと、お目当てのコマクサが一面に咲いている。タカネスミレやミネズオウ、キバナシャクナゲ、イワベンケイ、コイワカガミも咲いている。花を楽しみながら山頂に到着する。山頂もコマクサに囲まれている感じだ。

ミヤマシオガマ

雨がいつ降ってきてもおかしくない状態なので、集合写真を撮って下山にかかる。コマクサの多い砂礫地からハイマツ帯に入ると、先頭のKさんが驚く声がした。目の前の登山道に雷鳥の親子がいたのだ。早速、写真タイムとなる。雌雷鳥と６匹の雛がいる。雛はまだ生後１０日程度ではなかろうか？とても小さくかわいい。雛を呼ぶ雌雷鳥のクークーという小さな声も聞こえている。今回、初めて雷鳥を見た人もいて、とてもラッキーだった。

蓮華岳のコマクサ

針ノ木小屋に戻り、登頂を祝う。夕食後にもう少し飲もうと思ったが、夜行バスであまり眠れないところに、１２時間の行動時間となったため、さすがに疲れて早々に眠りについた。

蓮華岳山頂にて

☆7月１４日

夜半、かなり大きな雨音が聞こえた。今日は、まっすぐ下山することにしたので、ゆっくり小屋を出る。出発する７時頃には、霧雨程度になっていた。

針ノ木小屋にて

下りが苦手な人もいるので、ゆっくり慎重に下る。落石を起こしやすい夏道を下り、雪渓に入る。雪渓は歩きやすい。順調に下っていく。

しかし、雪渓が終わり、滑りやすいトラバースは危険なため、サポートをしながら慎重に下っていく。事故が起きてからでは遅いので、声かけや手を取っての下りとなる。それでも、全員無事に通過し、大沢小屋に到着する。管理人さんにここまで下山したことを伝える。

ライチョウの親子

ベニバナイチヤクソウなどの写真を撮りながら下っていくと、シジミチョウがたくさんいるのを見つけた。シロツメクサに群がっている。帰って図鑑で調べてみたらアサマシジミかヒメシジミではないかと思われた。スジグロシロチョウのような蝶もいたが、蝶に詳しいＣさんは外来種ではないかという。蝶は見分けが難しい。

扇沢に着き、靴を洗ってバスに乗り込む。途中の大町温泉郷でバスを降り、さっぱりして帰途についた。かなりハードな山でしたが、お疲れ様でした。　　記：網干

ヒメシジミ

《参加者の感想》

アルプのアルプス登山に初参加しました。以前より登りたかった針の木雪渓、沢の音や小鳥のさえずりを聞きながら、気持ち良く登ることができました。曇り空の中、針の木岳の山頂では薬師岳から剣岳までの山並みを見渡すことができ、いつか登ってみたいと思いました。また、蓮華岳では山頂一面にコマクサ、雷鳥の親子にバッタリ会うことができ、初めての経験を多くさせて頂きました。単独登山もいいが、山の楽しみを参加メンバーと分かち合えたのは良かったです。楽しい登山有り難うございました。　　記：H.K さん

コースタイム

7/13 扇沢(5:10)…大沢小屋(6:45-7:00)…雪渓下(8:00-8:10)…針ノ木小屋(11:25-12:15)…針ノ木岳(13:20-13:50)…針ノ木小屋(14:50)…蓮華岳(15:50-16:10)…針ノ木小屋(17:10)

7/14 針ノ木小屋(7:10)…大沢小屋(10:50-11:05)…扇沢(12:50)

★入笠山(7 月 21 日)

参加者　会員(障害者４名、健常者８名)

今年の梅雨明けは遅く、この日も梅雨は明けず、曇り空で午後からは雨も降る予報だった。それでも、甲府駅を過ぎた頃から日も当たるようになってきた。甲斐駒ヶ岳もよく見えていた。

富士見駅であずさを降り、無料送迎バスに乗る。送迎バスはかなりの混雑だった。バスを降りて、切符を購入してゴンドラ乗り場に行く。駅にある温度計は、２３℃を指している。

ゴンドラに乗れるか心配もあったM君だったが、問題なくゴンドラに乗って一気に標高１７７０mの山頂駅に行く。途中で富士山を見ることもできた。ゴンドラの頂上駅の温度計は２０．５℃をさしている。標高の割りには比較的暖かい。

入笠湿原を歩く

ゴンドラ駅からは、釜無ホテイアツモリソウの実験園？方面を経由していくことにする。こちらには、クガイソウやヤナギラン、ニッコウキスゲなどが咲いている。途中で行き止まりだったので引き返し、入笠湿原に向かう。

ノハナショウブ

入笠湿原に入るには、柵に付けられた扉を開けて入る。シカの食害から草花を守るための処置だ。キバナノヤマオダマキなどを見ながら木の階段を下っていくと、湿原に着く。湿原では、ノハナショウブやアヤメがたくさん咲いている。クリンソウも咲いている。

クリンソウ

花を見ながら湿原の木道を歩き、山彦荘前で休憩する。ここに少し前まで釜無ホテイアツモリソウが咲いていたようだが、もう花はなくなっていた。

山彦荘前から、車道ではなく遊歩道を歩いて山頂を目指す。クリンソウがたくさん咲くところもあり、写真を撮りながら歩く。マナスル山荘下から、上に続くお花畑を歩く。ここには、ハクサンフウロやニッコウキスゲ、アヤメなどが咲いている。

お花畑を登る

お花畑から、牧場横の道を登っていく。途中の分岐で、岩場コースを上ることとする。高さ１mほどの岩場に鎖が付けられていて驚いた。鎖場から少し登ると山頂に到着する。山頂には大勢の人たちがいる。八ヶ岳は権現岳が見え、雲が少し切れると赤岳も見えていた。八ヶ岳の右奥には奥秩父の金峰山が見えている。富士山と甲斐駒ヶ岳は、残念ながら雲の中だった。

山頂で昼食を摂り、集合写真を撮った後は、仏平峠方面に下山する。仏平峠から、大阿原湿原まで往復しようとも思ったが、無料送迎バスに遅れると困るので、そのままゴンドラの山頂駅に戻ることにする。

道路脇には、ウツボグサが咲く。また、樹木を枯らしてしまうサルオガセがたくさん樹木に付いているところもあった。もう一度、入笠湿原を通り、山頂駅に向かう。山頂駅の近くでは、ノアザミに止るギンボシヒョウモンやヒメキマダラセセリを見ることができた。ナデシコも咲いていたが、入笠山の散策ガイドブックを見るとエゾカワラナデシコのようだった。

ゴンドラの横にある売店で、飲み物やソフトクリームを買って一休みして、ゴンドラに乗り込んだ。雨が心配された１日でしたが、一度も雨に降られることなく、湿原の植物などを楽しむことができました。　　記：網干

入笠山山頂にて

《参加者の感想》

入笠山は、手軽に夏の登山が楽しめて、たくさんの人で賑わうのが納得です。

ゴンドラで一気に高地に連れていってもらえて、得をした気分♪極度の高所恐怖症の長男は手に汗をにぎっていましたが、山行の楽しさは恐さを勝ったようです。下りは一緒に乗る方々を勝手に決めてさっさと乗り込み、手を振る余裕さえみせてました（笑）！

心地よい高原の風を、もう少し味わいたかったですが梅雨明け前の時期でありながら、雨にも降られず眺望さえ楽しめて、ラッキーな１日になりました。ありがとうございました！

記：F.I さん

ノアザミに止ったギンボシヒョウモン

コースタイム

ゴンドラ駅(10:45)…入笠湿原(11:20-11:40)…入笠山(12:20-12:50)…仏平峠(13:15)…ゴンドラ駅(14:10)

★蝶ヶ岳(7 月 27 日～28 日)

参加者　会員(健常者５名)

☆7月２７日

今回は、全員で５人の参加だが、３人は金曜日に横尾山荘まで行き、山荘に泊まる計画だ。金曜日の夜行バスで行くのは、Ｓさんと私の二人だけ。

台風が直撃する予報になり、この土日は雨の予報。しかし、日本気象協会の予報を見ると、安曇野市は土曜日の午前中降らない予報。午後から雨の確率が高くなり、夜にかけて降る予報になっている。日曜日はずっと曇りの予報だ。土曜日の午後から台風の影響を受けそうなので、横尾から蝶槍に登ってヒュッテに行く予定を変更し、徳沢からの往復にする。前泊の３人は、泊まる場所を徳沢園に変更したとのこと。後で聞いたら、１泊１２０００円で、ホテルのようにきれいで豪華な食事だったとのこと。

私とＳさんは、夜行バスで行くが、台風の予

報になったことも影響したようで、バスは比較的空いていた。途中から２人分の席を１人で座って寝ることができた。

上高地に着くと、雲は多いもののまずまずの良い天気だ。食事とトイレを済ませて出発する。河童橋では、川霧の向こうに穂高連峰がきれいに見えた。

朝霧のわく梓川と穂高連峰

２人だけなので、足取りは軽く、良いペースで徳沢に着く。徳沢に泊まった３人は、６時に出発しているはず。ゆっくり登っていると思うので、どこかで追いつくと思ったが、蝶ヶ岳の山頂直下で、山頂から降りてくる３人を発見し、ヒュッテに同時に着く状況だった。

徳沢と前穂東壁

徳沢で休憩した後は、Ｓさんと急坂を登る。Ｓさんはなかなかのハイペース。ちょっと早すぎるのではないかと思っていたが、２０１０ｍの小ピーク手前頃からペースが落ち始めた。先頭だとどうしてもペースが速くなるので、やはり先頭の経験も必要だ。

クロジやコマドリ、ルリビタキなどのさえずりを聞きながら登っていく。長塀尾根は山頂直下まで樹林帯でほとんど展望がない。そのため、天気変化が分かりにくいが、長塀山の手前くらいで細かい雨が降り始めた。カメラが濡れることが心配だったが、カッパを着るほどではなかったので、そのまま登っていく。

蝶ヶ岳に向けて長塀尾根を登る

長塀山の手前で下山してくる人に、登っていく３人組がどの辺にいたか聞くと、長塀山を過ぎたところで会ったと聞く。過ぎたところといってもかなり先かも知れないが、もしかして追いつく可能性もあるかなと思う。

長塀山で昼食タイムとする。長塀山を過ぎると、高山植物が増えてくる。ミヤマキンポウゲやキヌガサソウ、ツマトリソウ、モミジカラマツ、ミヤマカラマツ、ミツバオウレン等々。花を楽しみながら登っていく。細かい雨も止み、青空も見えるようになってきた。このまま晴れが続いてほしかったが、長くは続かなかった。曇り空になり、霧雨のような細かい雨も感じる。

それでも、妖精の池周辺は、いろんな高山植物が咲いているので楽しめるところだ。ハクサンチドリやテガタチドリ、クルマユリやヨツバシオガマ、コバイケイソウなどが楽しませてくれる。

クロツリバナ

さらに登ってお花畑になる頃、雨が次第に強くなってきた。それでもまだカッパは不要だっ

た。天気の良いときは槍ヶ岳が見えるところを過ぎて登っていくと、稜線に女性２人が山頂から下っていくのが見えた。その後に、Ｉさんと思われる格好をした男性も見えたので、間違いないと思い、「おーい」と声をかける。こちらを見ていたので、気がついたと思ったが、後で聞いたら、声は聞こえたけど、姿は全く分からなかったとのこと。

雨も強くなってきて、カッパを着なければならない強さだったが、ヒュッテまで近いので、足早に歩いて行く。そして、小屋の入口近くでＫさんに会えた。１２時５分に蝶ヶ岳ヒュッテ到着。

早速、冷えたビールで乾杯する。うたの好きそうなご夫婦がいたので、一緒に山の歌っていると、後にいた若い女性が「とても楽しそうですね」と仲間に入ってきた。旦那さんも一緒で、彼も歌が好きそうで、何曲か歌ってくれた。そんなこんなで盛り上がって、いつの間にか記憶喪失になって眠りについていた。

差し込む光と雲海と光る町

☆７月２８日

夜半、小屋をたたく雨音がしていた。しかし、３時過ぎには止んでいたようで、外に出ると、ある程度の視界もあり、月の位置が分かるくらい雲も厚くなかったようだ。

４時半過ぎに起きて準備をする。みんな外に出ている。御来光は見られなかったが、霧は晴れていて、雲海やその下のキラキラ光る町の明かりも見えてきた。

３０分近く並んで、５時半に朝食を摂る。小屋を出たのは、６時２０分頃。蝶ヶ岳山頂で集合写真を撮る。常念岳はよく見え、大天井岳も時々姿を見せてくれる。槍ヶ岳は、もう少しで見えそうだったが、雲の中から姿を見せることはなかった。穂高連峰は厚い雲に包まれていて、見ることはできなかった。

蝶ヶ岳山頂にて

山頂を後にして、下山にかかる。順調に下り、徳沢で昼食タイムとする。上高地である程度ゆっくり入浴できる時間を作りたいこともあり、林道は少し早めに歩いて行く。

キヌガサソウ

小梨平で入浴し、隣の食堂で乾杯をしてから、バス停に向かった。計画通りのバスに乗って新島々へと向かった。バスに乗ると、すぐに眠りについてしまった。台風の影響をあまり受けずに、みんな順調に歩き通せた山行でした。

記：網干

コースタイム

7/27 上高地(5:50)…徳沢(7:20-7:35)…長塀山(11:00-11:15)…蝶ヶ岳ヒュッテ(12:05)

7/28 蝶ヶ岳ヒュッテ(6:20)…蝶ヶ岳(6:25-6:30)…長塀山(7:20-7:30)…徳沢(10:45-11:05)…小梨平(12:30)

★登山知識及び技術向上コース（黒部五郎岳～双六岳）(8 月 9 日～12 日)

参加者　会員(健常者 4 名)

☆8 月 9 日

夜行バスで折立に着く。あまり眠れないが、いつものことなので、特に問題はない。朝食を食べて出発する。

最初は、いつもながら、樹林帯の急登となる。展望が良くなる三角点展望台までは、忍の一字だ。それでも、どんどん高度を稼ぐので、後の鉢伏山などが見えるようになる。

三角点展望台に着くと、薬師岳や剣岳、室堂に続く弥陀ヶ原などが見えるようになる。ここで休憩してさらに登っていく。

有峰湖を下に見て太郎平に向けて登る

展望が良くなり、振り返ると有峰湖が俯瞰できる。緩やかな傾斜の斜面には、一面にキンコウカが咲く。これほどのキンコウカの群落は他にないのではないだろうか？

一面キンコウカのお花畑

緩やかな登りだが、Nさんと I さんが遅れている。Nさんが足をつり、休憩していたようだ。合流してからは順調に歩く。五光岩ベンチで休憩していると、プロガイドのKさんが登ってきた。昨年、二子山でも会ったが、Nさんは久しぶりの再会のようだ。

五光岩ベンチからは、薬師岳を左手に見て、緩やかに登っていく。綿毛になったチングルマが多く、ニッコウキスゲも咲いている。もう昼過ぎに太郎平小屋に到着する。太郎平小屋では、外のベンチで飲んでいると、歌の好きな他のパーティーと合流して一緒に歌う。夜はぐっすり眠れた。

太郎平にて

☆8 月 10 日

3 時頃外に出ると、満天の星が広がっていた。流れ星も見えた。

5 時に朝食を食べ、6 時前に太郎平小屋を出発。後の薬師岳が大きく、雲ノ平方面がよく見える。足下には、朝露に輝くチングルマの綿毛が無数にある。他の登山者に教えると「詩の世界ですね」と言って、写真を撮っていった。

チングルマの綿毛

チングルマだけでなく、光る朝露を背景にすると、クマザサやミヤマアキノキリンソウもとても映える。歩くスピードは父として上がら

ない。他のメンバーは、先に行って待っていてくれる。

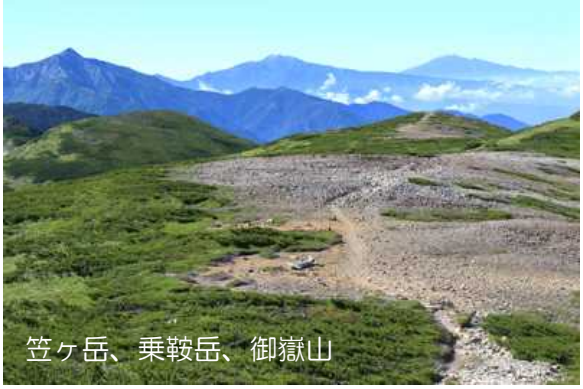
北ノ俣岳まではとてもたおやかな広い尾根が続く。槍ヶ岳も見えるようになってきた。手前にはお花畑も広がる。まさに稜線漫歩の世界だ。ただ展望と高山植物に酔いしれながら歩けば良い。下界のいろんなことも忘れさせてくれるすばらしい世界だ。

北ノ俣岳に着くと、笠ヶ岳や乗鞍岳、御嶽山が並んで見えるようになる。広い山頂でゆっくりする。

北ノ俣岳からは、赤木岳を越え、以前山仲間アルプでも登った赤木沢の源頭部に着く。あの時は、赤木沢を遡行した後に、今歩いてきた所を歩いて太郎平小屋に戻ったのだ。まだまだ体力があった頃だ。

ここから黒部五郎岳への登りが始まる。手前に山があるが、これはニセ黒部五郎と呼ばれているらしい。そこに上がると、黒部五郎岳がかなり向こうに聳えている。ゆっくり歩いて行こう。

２ 回ほど傾斜の緩いところを過ぎると最後の登りにかかる。傾斜が次第にきつくなる。それでも、順調に登っていく。登り着いたところが、黒部五郎の肩だ。ここからあと少しの登りで、山頂だ。山頂でお昼を食べようと思い、ザックを担いで登っていく。



黒部五郎岳や三俣蓮華岳は、40 年前に登ったことがある。あの時は、剣岳から槍ヶ岳への縦走の途中だったが、3 日目の黒部五郎小屋までずっと雨で景色は何も見えなかった。今回は、好天に恵まれた最高だ。ただ、槍穂高連峰はすでに夏雲に包まれて、稜線は見えなかった。それでも、山頂で展望を楽しみながらゆっくり昼食を摂れた。

肩まで戻り、カールコースを行く。カールを下っていると、久しぶりにクジャクチョウを見つけた。ミヤマカラマツやミヤマダイモンジソ

ウなども咲いている。カールの底に着くと、雪解け水が流れる沢があった。ここで冷たい水を飲む。身体を冷やしてくれて、とてもうれしい。

黒部五郎岳山頂にて

カールから黒部五郎の小屋までは、樹林帯もあって意外に時間がかかる。私は、先について、宿泊手続きをする。おいしくリンゴを食べている人を見たら、とても食べたくなり、リンゴを買って食べた。

Nさんと I さんも少し遅れて到着した。意外に長かったので、かなり疲れた様子だった。

ここの小屋でも、他のパーティーと歌で交流を図って、ぐっすりと眠りについた。

黒部五郎小屋にて

☆8 月 11 日

黒部五郎の小屋は、4 時 30 分から朝食が始まる。30 分前に並んで、最初のグループで朝食を摂れた。それほどの混みようではないので、2 回戦で終わるようだ。

黒部五郎小屋からは、樹林帯の登りが始まる。振り返ると、黒部五郎岳に朝日が当たっていた。樹林帯を抜けると、笠ヶ岳がよく見えるようになる。

ここでも、チングルマなどの水滴が美しい。葉の先端に付いた水滴の写真を接写で撮る。コバイケイソウもきれいに咲いていた。

水滴の中に三俣蓮華岳が見える

昨日、一緒に歌った男性 3 人パーティーが追い越していく。黒部側のトラバース道では、ミヤマダイモンジソウが美しい。3 人パーティーとは黒部乗越で別れる。彼らは雲ノ平まで行くらしい。

三俣蓮華岳にて

最後の登りをがんばると三俣蓮華岳の山頂だ。ここからは、槍穂高連峰が指呼の間に見える。登ってきた黒部五郎岳や以前登った薬師岳、祖父岳などもよく見える。富山、長野、岐阜の県境。さすがに展望が良い。ただ、標高はあまり高くなく、隣の丸山や双六岳の方が高い。

三俣蓮華岳から見た槍穂高連峰

山頂から一旦下り、丸山の登る。外国人の人たちが大きな声で話しながら下ってきた。丸山に登ると、双六岳が指呼の間だ。その左手には

笠ヶ岳もよく見えている。

槍ヶ岳をみだりに見ながら、気持ちの良い稜線を歩く。少し登ると双六岳に着く。双六岳は三俣蓮華岳以上に槍穂高連峰が近く、最高の展望台だ。手前に双六岳の広い尾根も広がる。

双六岳から広い尾根ルートを歩く。槍ヶ岳がどんどん近づいてくる。とにかく歩きやすく気持ちの良い尾根が続く。

双六岳にて

私はトイレに行きたくなったので、みんなより少し早く双六小屋に着いた。この小屋は、カレーライスが名物らしい。しかし、Nさんはうどんを注文した。うどんはゆでなければならないので、一番時間がかかると言われたらしい。

双六岳の稜線を下る

双六小屋の横にはテント場があり、その先には双六の池がある。その向こうには、笠ヶ岳方面が見える。すでに空には夏雲がもくもくと成長していた。

ここからは、弓折乗越に向けての緩い登りとなる。トリカブトがきれいに咲いている。

尾根に上がると槍ヶ岳が見えた。しかし、その後すぐに雲に隠れるようになってきた。少し歩くと、今晩の宿となる鏡平山荘が下に見えた。

きれいに咲いたクルマユリや花見平と呼ばれるお花畑を楽しみながら歩いて行くと、弓折乗越に到着する。ここから鏡平に下っていく。

双六岳小屋を背に

この下りでは、双六小屋でキャンプする多くの人たちとすれ違った。鏡平にはテント場がないので、テント泊の人は双六小屋まで行かなければならない。みんな苦しそうに登っていた。

双六岳池と笠ヶ岳方面

鏡平山荘に着く頃には、すでに槍ヶ岳は雲の中で全く見えなくなっていた。今日も、これまでの小屋で歌を聞いていたという女性グループと一緒にビールで乾杯して歌を歌う。

双六岳を背に鏡池を目指す

☆8 月 12 日

いよいよ、今日は下山の日だ。朝起きると、小屋の前に槍ヶ岳が見えている。4 時 30 分からの朝食を摂った後、すぐに鏡池に行く。以前、

笠ヶ岳を目指して登った時に鏡平山荘に泊まったが、このときは大雨になり、池からは何も見えなかった。しかし、今回は、槍ヶ岳がよく見える。池に映る槍ヶ岳も見られた。

鏡池から見た黎明の槍穂高連峰

下山する登山道からは、朝日が当たる焼岳や乗鞍岳も見られた。4 日間好天に恵まれた、たっぷりと日焼けしたメンバーは、ぐんぐん下っていく。秩父沢を越え、さらに下ると林道に出る。林道を 20 分ほど行くと、わさび平小屋に着く。水を張った木のケースにたくさん浮かんでいるトマトが美しい。わさびも栽培されていた。

林道では、クリヤノ頭方面や風穴の天然クーラーを楽しみながら下る。新穂高温泉直前の道路では、動物が横切った。帰って図鑑で調べてみたら、アナグマだった。野生のアナグマを見たのは初めてだ。

4 日間とも好天に恵まれて、北アルプスの良縁歩きを満喫できたのではないでしょうか？　温泉で汗を流し、松本行きのバスに乗り込んだ。

記：網干

鏡池と槍穂高連峰

《参加者の感想》

北アルプスの縦走に初参加しました。折立から太郎小屋に到着すると、清美な薬師岳と北アルプスの山々を見渡すことができ、私にとっては感動的でした。遠くに目指す山があり、踏破できるか少々不安がありましたが、いざ歩くとその不安は一掃されました。

鏡池にて

途中の花々や見る角度で山の景色が変わり、終始楽しみながら山行できました。

特に印象的なのは、黒部五郎岳のカール渓谷、斜面の花畑や清らかな沢の音には心が癒されました。また、その夜は満天の星空も見ることができました。次に、双六岳では展望が良く、雄大な鷲羽岳や槍ヶ岳、穂高の山並みを間近に見ることができました。

最終日の下山は気が付くと、顔が真っ黒で口まで日焼けしていました。この 4 日間、晴天に恵まれ、北アルプスの山旅を一緒に堪能することができ、有り難うございました。

記：H.Kさん

ミヤマアキノキリンソウ

コースタイム

8/9　折立(7:20)…三角点(9:10-9:20)…五光岩ベンチ(11:25-11:45)…太郎平小屋(12:40

8/10　太郎平小屋(5:45)…北ノ俣岳(8:15-

8:40)…赤木岳(9:20-9:30)…黒部五郎岳(12:05-12:50)…黒部五郎岳の肩(13:05-13:15)…黒部五郎小屋(15:10)

8/11 黒部五郎小屋(5:05)…三俣蓮華岳(7:40-8:05)…双六岳(9:35-10:00)…双六小屋(10:45-11:40)…弓折乗越(13:20-13:30)…鏡平山荘(14:05)

8/12 鏡平山荘(5:20)…秩父沢(6:40-6:55)…わさび平小屋(7:45-8:10)…新穂高温泉(9:10)

★登山知識及び技術向上コース（大日岳）(9月21日～22日)

参加者　会員(健常者２名)

☆9月21日

今日、明日と、天気予報は雨予報。「大雨でなければ実施しましょう」というKさんの声に押されて、実施を決めた。往復のバスや山小屋のキャンセルをするのも面倒なので、行ってみてから判断することとする。予報は曇り時々雨で、降水確率７０％ほどだが、雨雲の動き予想を見ると、富山周辺は日中降らない時間もありそうだ。展望は期待できないだろうけど、台風もまだ遠く、強い雨にならないだろうと予想して出発する。

前日の夜行バスは、ガラガラだった。キャンセルがたくさん出たのだろう。他の行き先に行く人も非常に少なかった。

扇沢でバスを降りると、女性が話しかけてくる。息子さんと二人で来たようで、今日は柏原新道から鹿島槍を目指すらしい。朝食だけ摂ってすぐに出発していった。

室堂で見つけたライチョウ

電気バスなどを乗り継ぎ室堂に到着する。Kさんは室堂は初めてらしい。外は雨が降っているようで、すばらしい景色を見てもらえないのが残念だ。

それでも、少し歩いて行くと立山三山が見えるようになってきた。今回、オコジョは見つからなかったが、ミクリガ池付近で雷鳥の雄を見かけた。

雷鳥沢のキャンプ場で少し休憩し、室堂乗越に登っていく。周囲の木々はわずかに紅葉が始まっている。草紅葉も始まってきたところだ。振り返ると、立山方面も草紅葉が始まり、秋色に染まりつつある。

室堂乗越に着くと、奥大日岳方面からご夫婦が歩いてきた。Kさんがどこから来たのか聞くと、雷鳥沢に下る道を間違って引き返してきたとのこと。道標に気づかなかったようだ。

雷鳥沢から室堂乗越に向けて登る

稜線を歩いて行くと、霧が晴れて剣岳が見えそうになる。少し休憩して、見えるのを待つが、難しそうなので出発する。しかし、少し行くと山頂近くまで見えるようになった。目の前のトラバースを過ぎれば、ちょうど見えるようになるのではないかと思ったが、このトラバースが意外に長く、終えた頃にはすっかり霧に覆われていた。

トラバース気味に上り、方のような所に上り、さらに歩くと、奥大日岳に到着する。誰もいない二人だけの山頂だ。ここで昼食タイムとする。食べ終わる頃、雨が降り出してきた。

奥大日岳山頂にて

奥大日岳の下りは、急で鎖場や梯子もある。途中で、単独の男性を追い越した。男性は、「なんでそんなに速く歩くのだ」と言っていた。今回は、Kさんに先頭で歩いてもらったが、いつもの山仲間アルプの山行とは全く違い、非常に快調なペースだ。私も、平坦地や下りは良いが、登りはやっと着いていく感じで、時々待っていてもらう状況だった。Kさんの体力は頼もしい。

雨の中、七福園を過ぎ、稜線を下っていくと、大日小屋に到着した。私が宿泊申し込みをしたときは、満員でぎゅうぎゅうだと言われたが、キャンセルが相次ぎ、今日は１２人しか宿泊客がいないらしい。私たちが一番早く着いたようだ。

奥大日岳からの急な下り

ザックを置かせてもらって大日岳を往復する。ここもコースタイムでは往復１時間になっているが、２５分で往復した。

小屋に戻ると、途中で追い抜いた九州の男性が小屋に到着した。彼も大日岳を往復してくるとのこと。

大日岳にて

小屋は、空いていて、我々宿泊客には快適だ。小屋の主人は、麓でギターづくりの職人をしているらしい。食堂に２つのギターが飾ってあった。食堂にはランプもたくさんつられていた。

宿泊客の人たちと交流していると、千葉の地元のすぐ近くに住む人たちもいてビックリ。しかも同業の人だった。すっかり飲み過ぎて、早々に床につく。

大日小屋のギター

☆９月22日

夜半は雨は降らなかった様子。ただ、３時頃外に出ると、霧で何も見えない。しかし、５時頃起きてみると、霧が晴れて、厚い雲の下に剣岳の山腹が見える。小窓尾根のシルエットがよく分かる。

朝日が差し込む剣岳

朝食の時、九州の男性から、昨晩ギター演奏があったと聞く。私たちの世代の歌だったけど、演奏を聞くだけで誰も歌わなかったとのこと。私がいれば、一緒に歌えたのにとのこと。申し訳ないことをしてしまった。

草紅葉と毛勝三山方面

朝食後、外に出ると、雲が少しずつ上がってきて、剣岳の横から日も差し込んできた。毛勝三山は、もうすっかり見えて、日も当たっている。剣岳は、もう少しで山頂が見えそうだが、時間もあるので、下山することにする。

大日平に向けて下山開始

小屋から少し降りると、弥陀ヶ原が見えるようになる。鍬崎山もよく見えている。後で気がついたが、遠くには白山も見えていた。

さらに下ると、薬師岳が見え、鷲岳や水晶岳も見えるようになる。下には、大日平も広がり、大日平山荘も見えている。大日平山荘から登ってきたのか、何人かの人とすれ違う。

傾斜が落ちると木道が始まる。大日平に到着だ。正面には薬師岳が見え、振り返ると大日岳が見える。周辺には池塘もある。イワショウブは赤い実になっていて、とてもきれいだ。今回は、雨だと思って交換レンズをこってこなかったのが悔やまれる。

大日平の木道を行く

大日平山荘で一休みして、牛首に向かう。行く手には、富山の町が見えてきた。青空も見えるようになる。弥陀ヶ原の向こうに大きな薬師岳が佇んでいる。今まで見たことのない風景だ。山はもう秋だ。ワレモコウも咲いている。

弥陀ヶ原と薬師岳

大日平が終わり、次第に痩せ尾根になる。両側がすっぱり切れたところもある。牛首から急な下りになる。鎖場や階段もある。岩は少し滑りやすく注意して下る。対岸には、急な壁が見える。称名滝とほぼ同じ標高差だ。こちらも、一気に降りるので、急な下りが続く。

牛首から称名滝への急坂を下る

ようやく車道に出た。ここが大日岳登山道入口だ。すぐに称名滝を見に行く。落差３５０ｍで日本一の落差を誇る滝だ。ボランティアガイドさんから、滝は毎年１０ｃｍほどずつ削れて

いるとのこと。１万年もすると、滝の落ち口は室堂付近になっているかも知れない。自然の力は偉大だ。また、この滝を登った猛者もいることを確認した。滝の左の壁を登ったらしい。すごい人たちだ。

予定より早く降りたので、Ｋさんに予定より速いバスがあるか聞いたところ、１０時２０分のバスがあるとのこと。あと１５分しかないので、走ることにする。ここでもＫさんの体力に完敗だ。それでも、５分ほど前にバス停に到着した。

称名滝

立山駅の観光案内所で日帰り入浴できるところを聞いたら、すぐ隣の千寿荘が宿泊客の状況で入れるかも知れないと聞き、行ってみると入ることができた。二日間の汗を流して、すっきりして、立山駅の無料休憩所で乾杯後、富山地方鉄道の電車に乗って帰路についた。富山駅が近づく頃、車窓から剣岳がよく見えた。

記：網干

コースタイム

9/21　室堂(8:30)…雷鳥沢(9:10-9:15)…室堂乗越(9:40)…奥大日岳(11:00-11:20)…大日小屋(12:35-12:45)…大日岳(13:00)…大日小屋(13:10)

9/22　大日小屋(6:30)…大日平山荘(8:00-8:15)…大日岳登山道入口(9:35)

★蔵王山(10月５日～６日)

参加者　会員(障害者３名、健常者６名)

☆10月５日

蔵王温泉ＢＴにて全員集合し、東に向かって出発。ナナカマド、アジサイを横に見ながら坂道を数分歩き、ワカサギ釣りができるという「盃湖」の側を通ると、何とカモシカがこちらを向いて熱烈歓迎。幸先の良いスタートだ。

蔵王温泉でバスターミナルで声だし

湖畔の家のご主人の話だと、カモシカは毎日、朝夕湖畔を散歩しているとのことだが、まだ、名前は付けていないとのこと。

カモシカと別れて両脇がホテル群のカーブの坂道を登っていく。車道が切れてから少し登ると右側にジャンプ台が見えてきた。勿論ジャンプはやっていなかったが、シーズン開幕に向けて、沢山の人が準備に追われている様子が見られた。

急坂を登る

枯れすすきの中を少し歩くと、龍山登山道入

口に着く。狭いが山道らしい道を登っていく。紅葉はまだまだの中、左上に屏風岩を見上げながらの、ロープ伝いの急登が続く。思ったより中々手ごわい急登だ。皆、一歩づつ慎重に足を運んで行く。

龍山（１３６２m）に着いたものの、ガスってて眺望がないが、頂上で昼食。下りもロープ伝いの急坂が続く。コエド超え下の急坂が終わり、ブナ林や低木樹林の中の緩やかではあるが、大きなアップダウンを数回繰り返すと、一気に中央ゲレンデが現れた。

竜山山頂にて

蔵王スカイケーブルの中央高原駅側の蔵王大権現に参拝し、数分歩くとエメラルドグリーンのドッコ沼に到着。この「ドッコ」という名前、気になっていたが、湖畔の立て札に由来の説明があった。その概要は「この沼に住んでいた竜を静めるため覚山法師が、金剛杵の独鈷（ドッコ）を投げ入れた」とのこと。スッキリ納得できた。湖畔の宿：ロッジＺＡＯドッコ沼に到着。

ドッコ沼にて

☆10月６日

６時からの朝食時に窓からドッコ沼を眺めると、湖面に雨の波紋が。天気予報によると、段々と天気が回復するとのことなので、出発時刻を８時に遅らせることにした。

前夜のラグビーワールドカップの日本勝利の余韻に浸りながら、小雨の中、出発。宿の前から中央ゲレンデを横切り、鳥兜山（１３８７m）に到着。少しガスが晴れて、吾妻連峰、飯豊連峰、旭連峰方面の手前の山々が姿を現したが、各連峰は雲の中に隠れたままだった。

下りの車道から山道に入ると、少し紅葉が目を引くようになった。片貝沼の脇をとおり、パラダイスコタンゲレンデ（勾配からして上級者コース？）を直登する。

鳥兜山にて

蔵王ロープウエイ山頂線に沿って、ザンゲ坂を登る。懺悔する必要のある人は、ひと際しっかりと大地を踏みしめているようだ。枯れ木にホシガラスが止まっていた。このガスの二日間で確認できた唯一の鳥に感謝。（ドッコ沼にカモらしき水鳥が、居るにはいたが）

稜線で休憩

地蔵尊で一休みし、地蔵山（１７３６m）に到着。この山頂も視界は殆どゼロなので、直ぐに下る。ワサ小屋跡を抜け、いよいよ蔵王山の最高峰熊野岳に向かう。

大きな岩がゴロゴロしている近道を登るこ

と、約３０分で熊野岳（１８４１ｍ）に到着。ここも視界ほぼゼロなので、記念写真を撮って、直ぐに下山。馬の背を下り、途中御釜をのぞき込むが、こちらも視界は殆どなし。

刈田岳レストハウスに到着するも、刈田岳山頂までの往復の時間を考えると、バスの発車時刻に間に合わないので、刈田岳山頂は残念することにした。

熊野岳山頂にて

１３時丁度発の山形駅行きのバスに乗り込み、蔵王エコーラインを下り始めると、急に視界が開け、沿線の樹木が見事に紅葉している。今回山行の最後のご褒美が、バスの中からの紅葉狩りと勝手に思いこみ、ウトウトしていると山形駅に到着。

終わりに、今回初めて、リーダーを拝命しましたが、参加メンバーの強力な協力の下、全員無事に下山できましたこと、皆様に感謝です。

記：生田

コースタイム

10/5 蔵王温泉ＢＴ（08：35）…瀧山登山道入口（09：05-09：10）…瀧山（10：45-11：25）…ロッジ ZAO ドッコ沼（14：00）

10/6 ドッコ沼（08：00）…鳥兜山（08：25-08：40）…地蔵山(10：50)…熊野岳（11：40-11：50）…刈田岳レストハウス（12：30）

★関八州見晴台(10 月 20 日)

参加者　会員(障害者１名、健常者４名)

１０月１２日から１３日にかけて東日本に甚大な災害をもたらした台風１９号の爪痕がまだ残るが、計画された活動なので、予定通り実施することにした。

黒山三滝の男滝と女滝

ただ、コース状況ははっきりしていない。もしものことを考えて、参加を取りやめた人もいる。もし、途中で登山道が崩れたりして通れない場合は、引き返すことにして出発する。

黒山でバスを降り、黒山三滝方面に向かう。この川は、今回の台風で氾濫した越辺川の上流になる。台風の時は、車道も川のように流れたのではないかと思われる。

黒山三滝の一つの天狗滝は、天狗滝まで行く道に付けられた鎖の手すりに多量の流木が積み上がり、人が通ることはできない。少し歩くと男滝と女滝がある。こちらは被害がなかった様子。茶店でみなさんは梅干しなどを買う。少しでもお金を落としていこうという配慮からだろう。

黒山三滝から少し戻って、山道を登る。少し行くと、右上の木の根の多いところがハイキングコースだという看板がある。しかし、左側の道の方が歩きやすそうなので、そちらに行ってみる。しかし、草むらのようになっていて手入れされていないので、看板の指示通りに行くの

が正解だと思い引き返す。

そこを登ってしばらく行くと、舗装道路に出る。花立松峠方面に進む。しばらく歩くと、車道を下ってくる２人組がいる。彼らは、この少し先に、ドロドロの崩れた土砂があり、行きは膝下くらいまで潜って登り、帰りは近くにあった木を土砂の上においてなんとか通過してきたとのこと。そんな状態ならここから引き返すという意見が出たが、とにかくそこまで行ってみることとした。

大雨による土砂崩れ

土砂の所に来たが、まずは潜らないしっかりした土の上を歩くことができる。途中でぬかるんだところがあるが、ほとんど潜らずに山側のしっかりした土の上に上がることができる。そこまで行くと、潜ることなく土砂を乗り越えて舗装道路に降りられる。私たちのメンバーは、全員問題なく通過した。さっきの２人組は、ルートファインディングが悪く、もっともドロドロの所を歩いたのだろう。上から降りてきた高齢者９人ほどのパーティーは、ここの通過が嫌なようで、山の方に引き返していった。せっかく下山してきたのに、登り返す気力があるのはすごいなと思った。

花立松峠にて

舗装道路が折れ曲がるところから山道に入る。しばらく樹林帯を登っていくと、関東平野がよく見えるところがあった。さらにススキの密集地を過ぎると、花立松峠に着く。ここは車道の交差点だ。何度かバイクが通り過ぎていった。

車道から岩の多い山道を登る。少しアップダウンがあるが、数パーティーが休憩している関八州見晴台に到着する。我々もここで昼食タイムとする。東京都心の高層ビル群やスカイツリーが見える。丹沢の大山もよく見えた。しかし、それより高い山は雲の中だった。奥武蔵側の山々は雲の中だったが、しばらくして武甲山が姿を見せてくれた。ここから見ると、武甲山も高く見える。

関八州見晴台に到着

関八州見晴台からは高山不動尊方面に下っていく。ただ、高山不動尊まで下るより、途中の車道から西吾野方面に下った方が早いので、そちら側に向かう。

関八州見晴台にて

車道の脇に、ホオズキの実を見つける。自然の中でホオズキを見るのは初めてだし、ホオズキ自体、もう何十年も見ていなかったので、とてもうれしかった。

植林帯を快適に下っていく。途中の分岐は、石地蔵が奉ってある。古い歴史はKさんが先生。知識が豊富で、いろんな所に実際に行って確認してきたり、普通ではとても読めない文を読み、その意味を考えるKさんには頭が下がる。

ホオズキ

石地蔵から右側の道を下っていく。もう電車の音も聞こえる。高麗川にかかる橋を渡り、国道に出る。

国道を歩いていると、犬の散歩中の知的障害がある男性が話しかけてきた。先日の台風では、この川（高麗川）の水位がここまであったんだよと説明してくれる。普段は川幅の半分くらいを浅く水が流れるくらいだが、今でも川幅ちょうどくらいの水量があり、普段より水量が多いという。いろいろ話しを聞かせてもらったので、お礼を言って別れる。

西吾野駅に着くと、すぐに電車があったので、その電車に乗り込んで帰路につく。予定より１本速い電車だった。　　記：網干

コースタイム

黒山バス停（9：50）…黒山三滝（10：20）…花立松峠（12：00-12：10）…関八州見晴台（12：45-13:30）…石地蔵（14：15-14：20）…西吾野駅（15：25）

★登山知識及び技術向上コース（妙義山）（10 月 27 日）

参加者　会員(健常者３名)

今回のコースは、これまでの登山知識及び技術向上コースの中でも、技術的にかなり厳しいコースとなる。垂直に近い岩場に付けられた鎖を頼りに上り下りするが、鎖を頼りすぎると腕力を使い切ってしまう可能性もある。男性ならまだ大丈夫と思うが、女性は腕力が弱く、腕力だけを頼りにすると力尽きて転落してしまう危険もある。そのため、ヘルメットとハーネスはもちろん、ロープもクライミング用の４５ｍを持参することにした。

暗くなる前に下山しなければならないため、新幹線を使って現地まで行く。松井田から予約したタクシーに乗り込み、石門入口まで行く。ここでハーネスを付けて出発する。少人数のため、とてもスピーディーだ。

第一石門をくぐり、第二石門に向かう。かにの横ばい、たてばりと鎖場を登り、長い鎖場を下る。第三石門への分岐をそのまま通り過ぎ、第四石門のある広場に着く。今回は稜線を行くため、門はくぐらず反対側に行く。

かにの横ばいを行く

ここから先は、一般登山者は行ってはいけないとしっかりと標識に書かれている。少し行くと滑りやすい岩場のトラバースとなる。今日は濡れているため、早速ロープを使って通過する。さらに登っていくと、主稜のコル直下の鎖場に付く。濡れていて滑りやすいが、スタンスは大きいため、ロープを出さな

かったが、登ってから慎重を期してロープを使って登ってもらう。

主稜のコルで休憩する。金洞山（なんと読むのでしょうか？）方面は、ロープが張られて登山禁止となっている。休憩していると、私たちの後から登ってきた若いペアーが通り過ぎていく。私たちが登り始めると、上で悲鳴のような声が聞こえる。少し登ると、彼らが展望の良いところにいるのが分かる。切れ落ちた岩場にビックリして叫んでいたのだろう？

中之岳直下の鎖場(Kさん撮影)

ロープの張られた岩場を登って行くと、これから向かう中之岳の鎖場が見える。要塞のように立ちはだかる垂直の岩場に、ロープがまっすぐ張られている。うーん、すごいコースだ。

中之岳に登っていたNさん

鎖場の下まで登り、ロープをつなぎあって網干がトップで登っていく。鎖を固定する支点のすぐ上の鎖にランニングビレーを取って登る。そこをNさん、Kさんの順番に登る。少し登ると、さっきの二人が切れ落ちた岩場の上にいるのが見える。金洞山もよく見えるようになる。

急な鎖場をみんな無事に通過する。登り着いたところが中之岳だった。展望がよく、裏妙義もよく見えるが、とても狭くて休憩する気にはならない。周囲の写真だけ撮って、すぐに下る。

次は、痩せ尾根の岩場となる。ここでもロープを使用し、Kさんから先に下ってもらう。痩せ尾根の先で、左側の垂直の岩場を下る。３ｍほどだが垂直のため、ロープがあった方が安心だ。その先は、こけしのような丸い岩が乗った岩場となる。

東岳への鎖場で確保するKさんとNさん

そこも慎重に通過し、次は東岳への登りとなる。ここも急な鎖場のため、ロープを使って登っていく。登り着くと、通過してきた中之岳がよく見える。

荒船山がよく見える

東岳の山頂もあまり広くはないので、そのまま下っていく。しばらく歩いて行くと、ルンゼ内２段２５ｍの岩場が見えるようになる。ここはこのルートの中でも上級と言われているところ。取り付き点に行ってみると、途中が垂直

に見える。相当腕力を使いそうだ。この取り付き点は比較的広かったので、ここで昼食タイムとする。主稜のコルからここまで全く休憩なしだった。後ろから来ていた若者二人は、休憩せずに登っていった。女性はまだ登山の経験はほとんどないが、富岡に住んでいるので、来てみたとのこと。急な鎖場をすいすい登っていった。

ルンゼ内２段25mの鎖場を登る(Nさん撮影)

ルンゼ内２段２５mの岩場は、私がトップで登るが、ここだけはNさんにビデオ撮影してもらうことにする。腕力を使って下部の垂直の岩場を登り、ルンゼ内の両側の壁を使って登っていく。上部で左にトラバースしてピークに着く。ピークには２人の男性がいた。妙義神社から来たが、もう腕力の限界のため、東岳と中之岳の途中から下るエスケープルートで下山するとのこと。Nさんが慎重に登ってくる。Kさんは軽やかに登ってくる。

鷹戻し方面と相馬岳

ピークにいると、さらに２パーティーほどが登ってきた。鷹戻しがどうだったかNさんが聞くと、「しびれました」とのこと。私たちは懸垂下降で下る予定だ。

どこが鷹戻しのピークか分からないまま、ルートを探しながら歩いて行くと、ヤマレコで見た鎖トラバースがあった。ここから、いよいよ鷹戻しが始まる。トラバースは、濡れていて非常に悪いので、ここからロープを使用する。下の方で、声がしたので、先に登ってくださいと伝える。６０代後半の男性が単独で登ってきた。ここは４０数年ぶりに来たとのこと。

鷹戻し最上部のトラバース

慎重にトラバースし、下降点に２人とも来てもらう。下を見ると、足場はかなりありそうだが、予定通り懸垂下降する。懸垂下降は順調だ。途中でピッチを切り、さらに懸垂で下って行く。少しトラバースすると梯子がある。ロープをつないでいるので、そのまま下ってもらう。下の岩場もそのまま下ろうと思ったが、ほぼ垂直なので懸垂で下りたいとのことなので、懸垂下降で下る。

鷹戻しを懸垂下降で下る

全員無事に鷹戻しを通過できた。時間的にかなり遅れているので、堀切まで行ってそこから中間道にエスケープすることにする。

鷹戻しを過ぎた後も、濡れた１５メートルの

鎖トラバースや８ｍの外傾バンドの鎖場があったが、順調に通過する。

堀切にて

そして、ようやく堀切に到着。集合写真を取れる場所がなかったので、ここで撮る。ここからは、中間道へ下っていく。さらに中間道を１時間半ほど歩いて妙義神社に着いた。この道も、昨年崩れた箇所があり、立派な金属の階段が設置されていた。全員無事に降りれてホッとする。ビールで乾杯し、タクシーを待つ。すでに足は疲れ切っていた。２日ほど、足と上腕の筋肉痛が続いていた。こんなに腕力を使った山行は、数十年記憶にないと思います。　　記：網干

《参加者の感想》

本格的な岩山に初めて挑戦。ギザギザの峰々を上り下りするルートで少し不安を感じながら、登りました。途中、急斜面は鎖場があるのですが、鷹戻しの下りは腕力では下れないので、ロープで懸垂下降しました。また、濡れている斜面もあるので、安全にロープで確保しながら移動しました。今回は普段使わないロープの使い方や確保の仕方など色々と勉強になりました。ご指導有り難うございました。

記：H.Kさん

コースタイム

石門入口(8:30)…主稜のコル(9:45-9:50)…中ノ岳(10:25)…東岳(11:05)…ルンゼ内 2段 25m鎖場下(15 分ほど昼食タイム)…鷹戻し(12:40)…堀切(14:40-14:45)…中間道(15:00-15:10)…妙義神社下(16:40)

９月29日の雁ヶ腹摺山は、雨予報のため中止しました。

講 習 会 報 告

★岩登り技術講習会（日和田山）(９月８日)

参加者　会員(障害者２名、健常者３名)

台風が関東を直撃しそうな状況が近づいていたが、前日の天気予報では、午前中は晴れ、午後から小雨が降り出す予報。雨が降り始めれば岩トレはできないので、雨が降る前に上がることを考え、出発を１時間早めて、日和田山には９時前に着く。

いつも大勢で賑わう日和田山だが、さすがに今日はいつもの半分程度。それでも、すでに男岩は、ノーマルルートを上っている人たちがいる。そのため、女岩を登ることにする。

岩登りを始める前に、ザイルの結び方講習を行う。八の字結びやマスト結び、半マスト、ブーリン結びなどを覚えてもらう。その後、女岩の３級ルートを上ってザイルをセットする。

今回が岩登り初チャレンジのKさんに、すぐに確保をしてもらう。Ｆさん夫妻、Nさんと登り、Kさんにも初チャレンジをしてもらう。問題なく登り切る。

今回は、まだ懸垂下降をしたことのないKさんとＦＺさんに経験してもらうことにした。二人とも、エイトカンにセットしたザイルを伝っ

女岩を登るＦさん

て、しっかりと下降できていた。

全員登り切った後、最初に上ったルートのすぐ左を登ることにする。ここは、最初の取り付きが難しい。しっかりしたホールドがないので、少しが外傾したスタンスに、しっかり立たなければならない。最初は苦労していたが、なんとか乗り越えて、全員登り切った。

昼頃、ポツンとわずかな雨を感じたが、まだ降り始めたと言うほどではない。しかし、遠くでカミナリの音がしてきた。１３時頃、雲が厚くなり、雨が降り出しそうなので、岩トレを終了して帰ることにした。他にも２パーティーほど、帰り支度をしていた。

１３時半頃、途中のコンビニで飲み物を買って、駅に向かった。非常に暑く、蚊の襲撃もあったが、みんなが２回登れたので、まずまずの練習ができたと思う。　　記：網干

女岩を登るＫさん

コースタイム

高麗駅(8:20)…日和田山(8:40～13:00)…高麗駅(13:50)

ハイキング報告

★第 57 回ふれあいハイキング（吉見百穴）(9 月 14 日)

参加者　会員(障害者１名、健常者８名)

どんよりとした曇り空だが数日前の猛暑は解消され一安心。

今日の参加者は９人だ。

まず東松山駅から箭弓神社へ向かう。駅から数分の場所にこのような立派でユニークな神社があったのは驚きだ。情報を教えてくれたＩさんに感謝。まずこの神社はやきゅうという音から野球関係の参拝者が多い。日本各地の野球少年が参拝に来ているようだ。また、芸能関係者も多く来るようだ。世界一の巨大御朱印も飾られている。庭は熊手で砂紋が引かれている。実に手入れの行き届いた神社に一同感心。

次に百穴方向の岩室観音に向かう。比企西国三十三所の第三所ということだ。裏手には胎内くぐりと呼ばれる穴のあいた岩がある。二階から秩父山系、武甲山が望めた。

そこから目と鼻の先にある吉見百穴へ。ここですぐに遅れてきたＩさん親子と無事合流出来、賑やかになる。古墳時代の横穴墓、太平洋戦争時の軍需工場跡、ほんのわずかだったがヒカリゴケを見学した。　昼食時に小雨が降ってきた。この後どうなるのか心配したが、百穴を離れるころには雨も止んだ。

大沼と天神沼ではＭ君が鳥を見たいと言っ

ていたがサギ 2 羽が飛んでいただけだった。鴨はやっぱり冬鳥のようですね。またの機会に。

ハート型の穴の空いた岩場をくぐる

松山城跡は入口が雑草で覆われており入るのに躊躇したが数メートル進んでみると踏み跡がはっきりしていた。420 年前に廃城になったが、空堀や切り落としがはっきりしていた。冬に来ると草が無くなり城の痕跡をさらに見つけやすいかもしれない。

吉見百穴の前で

東松山駅へ戻り解散。ここから多くの人は帰宅途中にある蔵の街の川越をこの機会に見学したいということで途中下車した。

今回皆様のお陰で無事に初リーダーを終えることが出来ました。ありがとうございました。

今回多くの方に埼玉比企地方の地味ですが味わいのある名所を経験していただけよかったです。また次の猿島もよろしくお願いします。

記：酒井

《参加者の感想》

「吉見百穴」からの参加でしたが、そこは想像以上の様相でした。横穴に入りましたが、ここに古墳時代の遺体があったことを想像すると、ちょっと背筋が寒くなりました。大沼、天神沼、松山城址…吉見丘陵の歴史を感じられて、とても興味深い場所でした。自然も多く残りますが、ところどころ整備されている様子から、桜や紅葉の頃はまた趣が違うように感じます。参加したことで初めて知った場所でした。ありがとうございました。　　記：F.I さん

松山城趾方面の入口を探す

コースタイム

東松山駅（10:15）…箭弓神社（10:20－10:50）…岩室観音（11:30－11:45）…吉見百穴（11:50－12:50）…大沼（13:10－13:20）…天神沼（13:30）…松山城跡（14:00－14:15）…東松山駅（14:40）

個 人 山 行 報 告

★槍ヶ岳(8 月 23 日～25 日)

参加者　会員(障害者２名、健常者１名)
　　会員外(健常者２名)

☆８月２３日

今回は、ぜひ槍ヶ岳に登りたいという弱視のＦさん夫妻に頼まれて実施することにした。しかし、山仲間アルプではサポートできる人が

少ないため、六つ星山の会にも応援を依頼してもらった。

天気予報はあまり良くなく、Kさん親子はキャンセルすることになった。しかし、出発直前になると予報が良い方向に変わってきた。ただ、２３日の朝までは激しい雨になる可能性がある。あまり強い雨が降ると上高地へのゲートが閉められる可能性があるので、少し心配していた。

心配は杞憂に終わり、予定通り５時半頃、上高地に到着。しかし、着いてすぐ、雨風ともに強い暴風雨となる。今日は槍沢ロッジまでなので、数時間待つことも可能だが、スマホで雲の動きを確認すると６時５０分頃にはほぼ雨が上がる予定だ。

朝食を摂ったり、トイレを済ませたりして待っていると、予報通り６時５０分頃には雨が上がってきた。７時過ぎに上高地を出発する。

オシドリ

いつもの林道を歩いていると少し日が差すときもあった。しかし、横尾を出発するとき、また少し雨がぱらついた。それ以降、雨は降らなかった。横尾を出発しようとしたとき、Aさんが追いついてきた。Aさんは、今日はババ平にテント泊する。ハイペースで歩いてきたようだ。横尾で昼食を摂ってから出発するとのこと。我々は先に出発する。

一ノ俣の手前にある槍見河原から、槍ヶ岳を見ることができた。一ノ俣で休憩していると、Aさんが追いついた。さすが歩くペースが早い。

ここからは、４人で歩くことになる。

槍沢ロッジで、Aさんと一緒にビールやコーヒーなどを飲んだ後、Aさんは一人でテント場に向かった。私たちは槍沢ロッジでくつろぎ、早々に床についた。

キベリタテハ

☆８月２４日

朝、起きるとすばらしい天気だ。今日は長時間の行動になるので、朝食は弁当にしてもらった。ロッジで弁当を食べてから出発する。

馬場平に着くと、出発準備をしたAさんが待っていてくれた。トイレ等を済ませていると、登ってきた女性を見て、Iさんがテレビで見たガイドさんだという。一緒に写真を撮りたいと話したらこころよく受けてくださった。後で確認したら小林ガイドだそうだ。素敵な笑顔で軽やかに登っていった。

ババ平で小林ガイドさんと記念写真

早朝ということもあるが、日陰の気温はかなり低い。槍沢ロッジでは、１２℃だった。半袖ではいられないので、長袖のシャツを着る。

大曲を過ぎると槍沢のモレーンなどがよく見えるが、稜線は雲に隠れているようだ。登っていくと、ようやく日が当たるようになった。

しかし、雲も多く、太陽は姿を見せたり隠れたりしている。

青空の下、お花畑を登る

この登りは、高山植物が増えてくる。キオンやミヤマトリカブト、サラシナショウマ、アザミの仲間が多い。モレーンの上に上がって登っていくと槍ヶ岳が見えるようになった。殺生ヒュッテも見える。

ヒュッテ大槍への分岐を過ぎて登っていくと殺生ヒュッテに到着する。予定より大幅に早く到着してしまった。ここで名古屋登稜会のMさんと合流する予定だったが、早すぎて会えなかった。小屋の方にMさんがここに来るので、先に行ったことを連絡していただくようお願いして出発する。

槍の肩にて

槍の穂先への登りに備えてハーネスを付けて行く。登山道脇には、イワギキョウなどが咲いているが、マクロレンズを殺生ヒュッテに置いてきたので、花の写真は撮れなかった。

槍ヶ岳山荘に到着するが、周囲を探してもMさんは見当たらない。今回、中学生のM君が参加しなくなったので、Ｆさん夫妻のサポートは私を含めた３人でも大丈夫だと判断し、山頂に向けてロープでつなぎあって出発する。

槍の穂先に登る

混雑するときは、槍ヶ岳山荘前まで人が並び、山頂まで３時間以上かかることもあるとのことだが、今回は全く順番待ちはなし。天気予報が良くなかったため、キャンセルした人が多かったのだろう。山は行ってみなければ分からないので、現地で判断することが良いのだが、山行を取りやめた人が多かったことで、私たちはスムーズに登ることができた。

梯子を登って山頂に到着したＦさん

槍の穂先は登りルートと下りルートが分けられている。登りは、途中から千丈沢側を登るようになる。ここからは間近に小槍も見える。ロープで確保しつつ順調に登っていく。一番の難所となる杭が打ってあるスラブ状の岩場も、Ｆさん夫妻は順調に登ってくる。そして、長い梯子を登り、さらに山頂に通じるさらに長い梯子を登り、念願の山頂に到着する。

雲が多く、黒部五郎岳や薬師岳方面、それに穂高方面は見えなかったが、常念岳、大天井岳、燕岳の表銀座方面はよく見えた。山頂の祠の所

に行き、集合写真を撮る。ここも空いていて順番待ちはない。あまり気遣う必要もなく、全員での写真も撮っていただくことができた。

槍ヶ岳山頂にて

下りは登り以上に危険なので、慎重に下っていく。Aさんと I さんの適切な指示のおかげで、順調に下っていく。登りとは違う下りルートだ。最後の頃にトラバース気味に下る鎖場があるので、そこが要注意の所。そこもお二人の適切な指示のおかげで、順調に下り、全員無事に槍ヶ岳山荘に到着する。

山頂から慎重に下る

もしかしてMさんが来ているのではないかと周囲や小屋の中を見たが、見当たらない。Fさん夫妻は、槍ヶ岳山荘でTシャツなどの記念グッズを買っている。

殺生ヒュッテに戻るが、ひげを生やしたMさんは来ていないという。でも、こんばんは、殺生ヒュッテに泊まると聞いていたので、会えることを期待して待つことにする。

登頂のお祝いをした後、Aさんは、ババ平に下っていった。小屋の方に殺生ヒュッテの名前の由来を聞く。昔、この付近は狩猟する動物たちを追い込んできて、仕留める場所だったことから殺生平と言われ、猟師さんが小屋を作ったことから、殺生ヒュッテの名前になったとのこと。聞いて納得する。

しかし、この小屋は閑散としている。泊まった人は全員でも１９人ほど。人が少なすぎて、２階の温度は、明け方６℃しかなかった。小屋は古く、トイレも和式のポッチャントイレのみ。設備では槍ヶ岳山荘の方が遙かによい。

下山日も好天に恵まれた

☆８月２５日

今日は下山するだけなので、小屋の朝食を食べてから下山を開始する。

槍ヶ岳の山頂方面は雲に包まれていた。それでも少し下ると日が差し始める。私は写真を撮りながら下りたいので、途中で先頭を I さんに代わっていただく。

高山植物や蝶などの写真を撮りながら下っていく。一ノ俣を過ぎ、横尾で昼食タイムとする。風呂に入る時間を確保したいので、ここから少し急ぐ。急いだおかげで徳沢まで４５分ほどで到着。ここからは少しペースを落とすことにする。

徳沢のトイレから出ると、アサギマダラが飛んできたので、指を差し出すと静かに止った。その後飛び立ったが、周囲をうろうろし、またこちらに来て、今度は交換レンズのケースに止

る。逃げないので、そのまま歩き出す。

梓川沿いに来ると強い風が吹いているが、アサギマダラは風に飛ばされないように、レンズケースにしっかり掴まっている。そして、そのまま掴まり続ける。

指の止ったアサギマダラ

途中でサルの親子がいたので写真を撮るが、アサギマダラが逃げないように気を遣いながら慎重に右手だけで撮った。

アサギマダラはとうとう明神まで一緒に来た。休憩している時、手を差し出すと手の方に移ってきた。そして羽根を開いてくれた。歩きはじめて、子どもがいたので、アサギマダラを見せてあげる。子どもたちは驚いていたが、その時、アサギマダラはひらひらと飛び立った。

１時間ほど、一緒の時間を過ごしたアサギマダラとお別れになってしまった。

あとは、小梨平の風呂を目指して一直線。３日間の汗を流してさっぱりし、乾杯した後、バス停に向かう。予定通りのバスに乗り込むことができた。帰りのあずさは、事前に指定席を取っていたので、全員座って帰ることができた。

無事に鑓ヶ岳に登頂できてＦ夫妻もうれしそうだった。３日間、お疲れさまでした。

記：網干

コースタイム

8/23 上高地(7:05)…横尾(10:10-11:00)…一ノ俣(12:00-12:10)…槍沢ロッジ(12:55)

8/24 槍沢ロッジ(5:00)…ババ平(5:40-5:55)…天狗原分岐(7:30-7:40)…殺生ヒュッテ(9:20-10:25)…槍ヶ岳山荘(10:55-11:15)…槍ヶ岳(11:50-12:05)…槍ヶ岳山荘(12:50-13:05)…殺生ヒュッテ(13:45)

8/25 殺生ヒュッテ(6:10)…槍沢ロッジ(9:50-10:00)…横尾(11:40-12:00)…小梨平(14:20)

その他活動報告

今回は、特にお知らせすることはありません。

各種連絡事項

▲2020 年度の計画について

現在、2020 年度の登山計画等を策定中です。すでにいくつか提案をいただいていますので、それらを加味して年間計画の案を作ります。

また、2020 年度も数人の方にリーダーをお願いする予定ですので、依頼があった場合は、ぜひ引き受けていただけるよう、よろしくお願いいたします。

会　員　情　報

●退会のお知らせ

残念ですが、７月以降、下記の方が退会されました。（敬称略）

２名

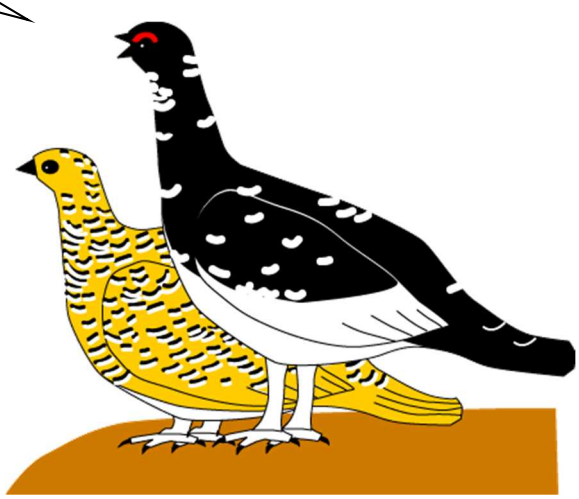
編 集 後 記

・会長のつぶやき

９月、１０月と台風や大雨による被害が相次ぎました。こんなに短期間に災害が続いたことは、私の記憶では全くありません。私が若かった４０年前から１０年ほど前の間には、雲仙普賢岳の噴火や奥尻島の地震被害などがありましたが、数年に１回程度ではなかったかと思います。しかし、ここ１０年ほど、地震や大雨による自然災害が非常に頻繁に発生しているように思います。地球の温暖化はどんどん進んでいるのですが、対策が進んでいません。１０月になっても２５℃以上の夏日が当たり前になり、海水温も低くなれない状況が続いているのだと思います。

今後も過去に例のない災害が、相次いで発生する可能性が高そうです。私たちに出来る事は、二酸化炭素の排出をできるだけ抑える等、温暖化対策に出来る事を考えて、行動することくらいかなと思います。

・次回発行予定は、３月頃を予定しています。

参加申し込みやお問い合わせは下記まで
〒276-0022　千葉県八千代市上高野 1161-1-208
山仲間アルプ　　網干　勝
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。
自然は、誰に対しても平等だよ！！